

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	植田 真夕子
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学 教授） 米田 豊 副主査：（鳴門教育大学 教授） 梅津 正美 委員：（鳴門教育大学 教授） 田村 隆宏 委員：（鳴門教育大学 教授） 西村 公孝 委員：（兵庫教育大学 准教授） 福田 喜彦
3. 論文題目	社会的な見方と社会的な考え方の育成を組み込んだ小学校社会科授業構成原理の開発 —探究過程における思考の構造を視点として—
4. 審査結果の要旨	<p>先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座 植田真夕子 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：令和2年2月9日（日） 14時00分～15時00分 場 所：兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 講義室3</p> <p>1. 学位論文の構成と概要 本論文は、探究過程における学習活動をとおして、社会的な見方や社会的な考え方を子どもに習得させるとともに、それらを活用することができる資質、能力を身に付けさせる授業構成原理を提案した。そして、この授業構成原理を用いて、授業開発と授業実践をし、その評価を論じた。本論文は、「第Ⅰ部 社会的な見方と社会的な考え方の育成を意図した小学校社会科授業構成原理」及び「第Ⅱ部 子どもの社会的な見方と社会的な考え方の育成を意図した授業モデルの開発、実践」で構成されている。</p> <p>序章 本研究の意義と方法 本論文の意義は、社会的な見方と社会的な考え方の構造を明らかにするとともに、それらの育成をめざす授業構成原理を構築し、子どもの思考力の育成をめざした授業モデルを提案したことである。</p> <p>第Ⅰ部 社会的な見方と社会的な考え方の育成を意図した小学校社会科授業構成原理</p> <p>第1章 探究過程における子どもの思考の構造 本研究の主題に提示している探究過程の構造について、先行研究を分析し定義した。また、問いの質が探究の質を左右することから、社会諸科学の研究成果を活用して解決すべき問いを形成することの重要性について論じた。探究過程における子どもの「思考」について、「学習課題の解決に向けて必要な情報を収集し、収集した複数の情報を加工した結果として、新たな情報を生成する活動」と定義した。そのうえで、社会認識形成から市民的資質育成をめざした探究過程における子どもの思考活動について、資料活用の具体と関連付けながら、その構造を明らかにした。</p>

第2章 小学校社会科授業における子どもの思考力育成

小学校社会科授業において、子どもの思考力を育成することの重要性を論じるとともに、子どもの思考力の育成をめざして、思考活動を行う前提条件について整理した。

また、思考力を育成するための手立てについて明らかにした。特に、授業を展開する際によりどころとなる学習指導案に組み込む「学習過程図」と、子どもに資料活用をとおして思考をうながすことができる「活用する資料を組み込んだ知識の構造図」を開発した。この2点を活用することの有効性について、授業実践をとおして具体的に検証した。

第3章 子どもの主体的な思考をうながす社会的な見方と社会的な考え方

これまで多くの社会科教育学の研究者が論じてきた社会的な見方と社会的な考え方について分析するとともに、類型化を行った。その研究成果を踏まえつつ、本研究では、子どもの思考活動と関連付けて、小学校社会科授業における社会的な見方と社会的な考え方を峻別して定義した。

社会的な見方は、社会事象をとらえる際に活用する視点であり、この社会的な見方が成長することで、社会認識をより一層深め、子どもがもつ内容知の充実を図ることができることを明らかにした。また、社会的な考え方は、見方を活用する際に働く思考方法であり、この社会的な考え方が成長することで、質の高い価値判断、意志決定を行うことが可能となり、子どもがもつ方法知の充実を図ることができることを明らかにした。そして、この社会的な見方と社会的な考え方を育成することこそが、子どもの思考力育成につながるということについて論じた。

第4章 社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす小学校社会科授業構成原理

学習者である子どもは、無数の情報が存在する社会の中にいる。この無数の情報から課題解決に必要な情報を抽出するために社会的な見方と社会的な考え方の育成が不可欠であることを明らかにした。そして、その情報の抽出方法について、図で提示するとともに、具体的に論じた。そして、社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざした小学校社会科における授業構成原理を明らかにした。この授業構成原理にもとづき授業モデルを構築することで、子どもの社会的な見方と社会的な考え方が成長するとともに、子どもの思考活動は活発化し、知的複眼思考のレベルが高くなることを明らかにし、図で提示した。そして、このような学習活動を繰り返すことで、子どもは社会事象をとらえる際に活用する新たな社会的な見方を習得したり、社会的な考え方が多様になったりして、深い学びが実現されることについて論じた。

第Ⅱ部 子どもの社会的な見方と社会的な考え方の育成を意図した授業モデルの開発、実践

第5章 小学校社会科授業における防災教育

授業モデルの開発にあたり、本研究で防災教育に着目した理由や小学校社会科授業で扱う意義を明らかにするとともに、学校教育において防災教育を展開するための必要条件について論じた。第Ⅰ部で構築した社会科授業構成原理にもとづき授業開発を行うことで、子どもの社会認識形成から市民的資質の育成が図られ、自然災害が発生したときに地域の一員として行動することができる資質や能力が育まれることが明らかとなった。

第6章 社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす小学校社会科授業構成原理を組み込んだ授業モデルの開発、実践

—小学校第3学年「119 —守ろう わたしたちの安全—」—

第Ⅰ部で構築した小学校社会科授業構成原理にもとづき、社会認識形成を図りつつ市民的資質の育成をめざした授業モデルの開発、実践を行い、その有効性を分析、検証した。本章では、小学校第3学年「消防の働き」に着目し、子ども自身がどのように社会的な見方を活用して社会的な考え方を働かせているのか、授業記録をもとに分析を行った。本授業実践をとおして、子どもは「時間」や「地理的位置」といった社会的な見方を活用して思考することが分かった。

第7章 社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす小学校社会科授業構成原理を組み込んだ授業モデルの開発、実践

—小学校第4学年「自然災害から人々を守る活動」—

第Ⅰ部で構築した小学校社会科授業構成原理にもとづき、社会認識形成を図りつつ市民的資質の育成をめざした授業モデルの開発、実践を行い、その有効性を分析、検証した。本章では、小学校第4学年「地域の自然災害」に着目し、子ども自身がどのように社会的な見方を活用して社会的な考え方を働かせているのか、授業記録をもとに分析を行った。本授業実践をとおして、子

どもは「自然条件」「地域的特色」「地形」といった社会的な見方を活用して思考することが分かった。また、事実の分析的検討を行う際には、「自助」や「共助」の視点を活用しながら、自分身として課題解決を図ろうとすることが分かった。

第8章 社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす小学校社会科授業構成原理を組み込んだ授業モデルの開発、実践

－小学校第5学年「日本の国土とくらし」－

第I部で構築した小学校社会科授業構成原理にもとづき、社会認識形成を図りつつ市民的資質の育成をめざした授業モデルの開発、実践を行い、その有効性を分析、検証した。本章では、小学校第5学年「くらしの環境」に着目し、子ども自身がどのように社会的な見方を活用して社会的な考え方を働かせているのか、授業記録をもとに分析を行った。本授業実践をとおして、子どもは「地理的位置」「気候」「地形」「工場分布」「時間的経過」「共生」などといった社会的な見方を活用して思考することが分かった。第5学年の学習となり、子ども自身が活用することができる社会的な見方として活用できる視点が多くなり、複数の視点を活用して社会的な考え方を働かせることができるようになっていくことが分かった。

また、事実の分析的検討を行う際には、①妥当性、②合理性、③実現可能性といった視点をもちながら、資料から読み取った情報を根拠として課題解決を図ろうとすることが分かった。

終章 本研究の成果と課題

本研究は、これまで多くの社会科教育学の研究者が一体としてとらえてきた、社会的な見方と社会的な考え方を峻別して定義した。そして、どのようにそれらを子どもに習得させるとよいか、開発した授業モデルの実践をとおして提案した。社会的な見方が成長することで、複数の視点から社会事象をとらえ、子どもがもつ内容知の充実を図ることができること、社会的な考え方が成長することで、より合理的に社会事象を吟味し、質の高い価値判断、意志決定を行い、子どもがもつ方法知の充実を図ることができることを明らかにした。

2. 審査経過

本研究は、探究過程における学習活動をとおして、社会的な見方や社会的な考え方を子どもに習得させるとともに、それらを活用することができる資質、能力を身に付けさせる授業構成原理を構築することを目的としたものである。これまでも多くの研究者や学校教育現場の実践者が社会的な見方と社会的な考え方の育成や活用をめざした授業実践研究が行われてきた。しかし、社会的な見方と社会的な考え方について言及しないまま、単に文脈で活用するに留まる研究が多く、定義して研究されたものは少ないのが現状である。そのため、学校教育現場では、「見方」や「考え方」といった用語のみが概念的に使われる状況で、それぞれの具体が示されておらず、多くの教員が本質的な理解に至っていないことが課題となっていた。その課題克服をめざし、社会的な見方と社会的な考え方の育成をめざす社会科授業構成原理を提案したところに、本研究の新規性がある。また、一体的に捉えられてきた社会的な見方と社会的な考え方を峻別して定義したところに、独創性がある。そして、社会的な見方を活用して社会的な考え方を働かせる思考活動を子どもが繰り返すことで、思考力が育成されることについて、授業実践をとおして明らかにした。

これらのことから、本研究は、理論研究にとどまらず、学校教育現場の授業実践に資することを目指したものであり、社会科授業実践の改善に大きく貢献するものであると高く評価できる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は植田真夕子の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。